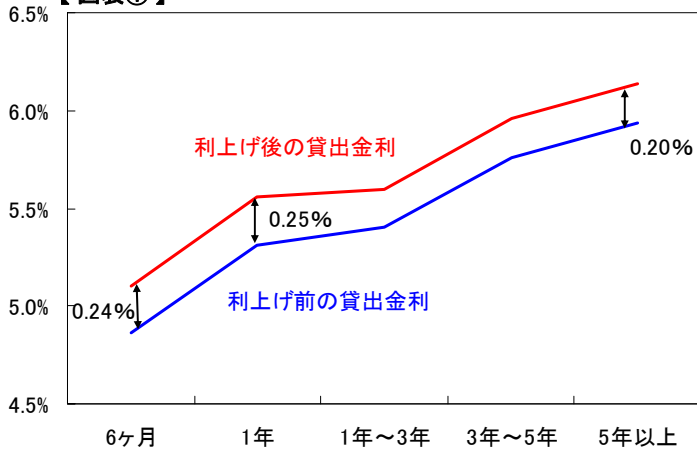


## 中国利上げについて

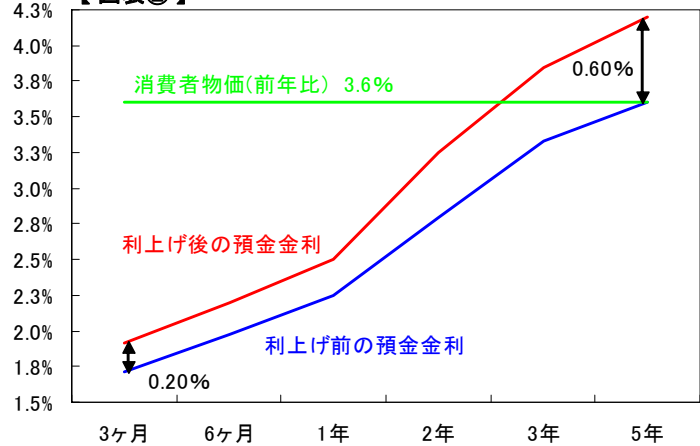
✓ 中国の利上げは、中長期的に健全な経済成長・資産価格形成へ貢献するものと考える。

● 中国は19日に1年物の貸出基準金利と預金基準金利をそれぞれ0.25%引き上げました。貸出基準金利の上げ幅を見ると、短期が長期よりも大きくなっています(図表①)。このため短期調達、長期運用の銀行利ざや縮小を通じ、不動産等への融資牽制が意図されている模様です。一方、預金基準金利の上げ幅は2年以降が短期よりも非常に大きくなっています(図表②)。預金金利が物価上昇率よりも低いため、預金に資金が定着せず株や不動産等へ流れ、資産バブル発生圧力となっていたため、この沈静化(預金残高の増加)を意図したものと考えられます。今回の措置は、健全な経済成長に向けた一つのステップと考えます。

【図表①】



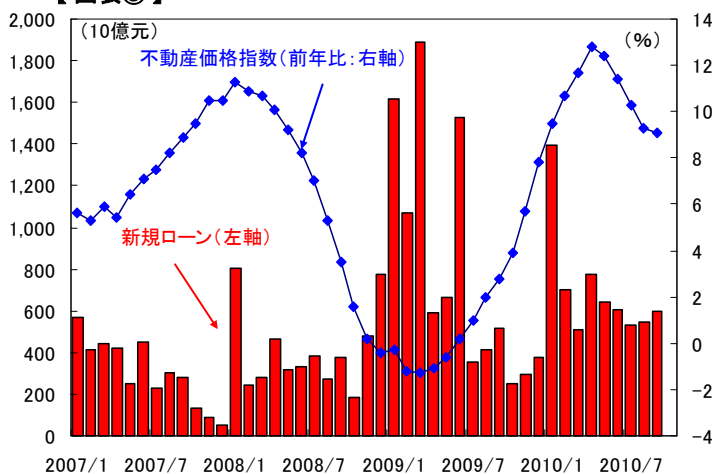
【図表②】



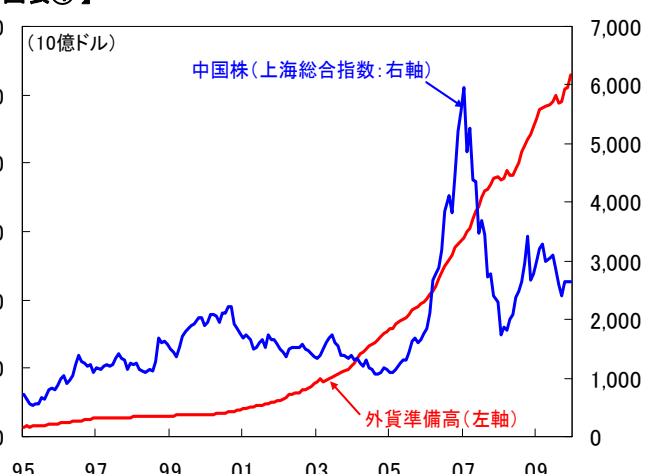
● 中国の不動産価格は沈静化してきたとは言え、依然として高水準で推移しています。この背景には、中国経済が高い成長を続ける中、銀行新規ローンが大幅に拡大したことや(図表③)、外貨準備高の増加にとともに、市中に供給されるマネー(中国元)が株や不動産に急激に流入してきたことが挙げられます(図表④)。

● 今回の利上げ措置は、前述の過剰流動性の一部を、より長い間、預金に定着させ、株や不動産への集中流入を抑制する意図があるものと考えます。このため短期的には株価の上値を抑える要因になり得ますが、中長期的にはバブル発生圧力の牽制を通じ、健全な株価形成に貢献すると見込みます。

【図表③】



【図表④】



出所: 図表①~④はブルームバーグのデータを基にニッセイアセットマネジメント作成